

YES! FUTURE! 2016

Faculty of Dentistry Niigata University
Department of Dentistry
Department of Oral Health and Welfare
Medical & Dental Hospital
Graduate School of Medical and Dental Sciences



新潟大学歯学部

歯学科・口腔生命福祉学科

An aerial photograph of Niigata City, Japan, showing a dense urban landscape with numerous high-rise buildings and residential areas. In the foreground, the Niigata University campus is visible, featuring several large, modern buildings with green roofs and a central parking lot. The city extends to the waterfront, where a large body of water and a bridge are visible in the background.

**新潟大学歯学部には
歯学科と口腔生命福祉学科があります。**



新潟大学歯学部長
前田 健康

社会に貢献する包括的医療人の育成

新潟大学歯学部は1965年、日本海側唯一の国立大学歯学部として設立されました。以来、新潟大学歯学部では地域で活躍する人間性豊かな歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成、最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用などを通じ、環日本海における歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする拠点として、輝かしい実績を残してきました。

歯学部には歯科医師を養成する6年制の歯学科と、平成16年から新設された4年制の口腔生命福祉学科があります。口腔生命福祉学科は超高齢社会を迎えるなかでその必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的にマネジメントできる専門家を養成することを目的としており、卒業により歯科衛生士と社会福祉士という2つの国家資格を取得できる全国初のユニークなカリキュラムを提供しています。

歯学教育は、むし歯の処置や抜歯など職業的技術教育の比重が高く、また、その技術には生物学的、材料学的知識が不可欠です。また、卒前に実際の患者様での診療参加型臨床実習を実施する医歯学教育での特殊性があります。そのため、社会に貢献する歯科医師として求められる知識・技術・態度の3つを効果的・一体的に学べるよう教育カリキュラム改革に取り組んできました。平成18年にはその取り組み「学生主体の三位一体新歯学教育課程」が評価され、文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、教育改善に積極的に取り組み、高度な歯学教育を展開しています。特に、歯学教育の総決算である臨床実習では実際の患者様の治療に携わる方式を採用しており、実践的能力を持つ人材の育成に努めています。平成24年度には文部科学省事業「大学間共同教育連携推進事業」に採択され、さらなる教育改善に努めるとともに、教育・研究環境の整備に力を注いでいます。

歯科医学・医療の研究組織である大学院医歯学総合研究科には口腔生命科学専攻及び口腔生命福祉学専攻（博士前期・後期課程）を設置し、保健・医療・福祉を統合した学際的研究を推進しています。また、医歯学総合研究科口腔生命科学専攻は平成17年に魅力ある大学院教育イニシアチブ、平成20年に大学院教育改革支援プログラムに、平成21年に日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択されるなど、大学院教育の改善を進め、国際性のある研究者、高度医療専門職業人の育成にあたっています。

また、新潟大学歯学部ではグローバル化の現代で活躍できる人材育成を目的として、学部学生の短期海外留学を積極的に奨励・支援するとともに、諸外国からの短期留学生を受け入れ、国際的視野を持つ人材育成に努めています。

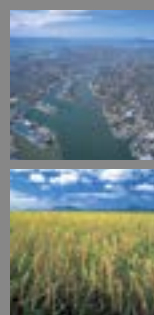
新潟大学歯学部では、これからも口腔や食べることの視点から包括的な医療人を養成し、社会に貢献できる人材を提供していきます。“すべての人の健康と質の高い生活を実現する”そのような志をもった学生諸君を待っています。

学びの場新潟

新潟市は日本一の大河、信濃川の河口に広がる日本海側最大の都市です。また、「水の都」と称され、古くから海運都市として繁栄してきました。新潟市は開港五港の一つとして、いち早く海外との交流を行ってきた開かれた都市です。現在では、高速交通網、空港、港湾の整備が進み、情報の発信都市としてますます発展し続けています。

新潟市は近代都市としての顔をもつ反面、海、山、川といった自然に恵まれ、また、コシヒカリ、新鮮なさかな、お酒に代表される食文化を魅了してくれる一面も持っています。

新潟大学歯学部は魅惑的な都市、新潟市の中央に位置しています。



歯科医学・口腔保健医療福祉を リードする情報発信基地

新潟大学歯学部・医歯学総合病院（歯科）

最先端の研究開発をリード

新潟大学歯学部は昭和40年に日本海側唯一の国立大学歯学部として開設され、東京医科歯科大学歯学部、大阪大学歯学部について3番目に古い歴史を持っています。以来、新潟大学歯学部では地域で活躍する人間性豊かな歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成、最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用などを通じ、環日本海における歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする拠点として、輝かしい実績を残してきました。

2学科で構成

歯学部には歯科医師を養成する6年制の歯学科と、平成16年から新設された4年制の口腔生命福祉学科があります。口腔生命福祉学科は超高齢社会を迎えるなかでその必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメント出来る専門家を養成することを目的としており、卒業により歯科衛生士と社会福祉士という2つの国家試験受験資格が取得できる全国初のユニークなカリキュラムを提供しています。

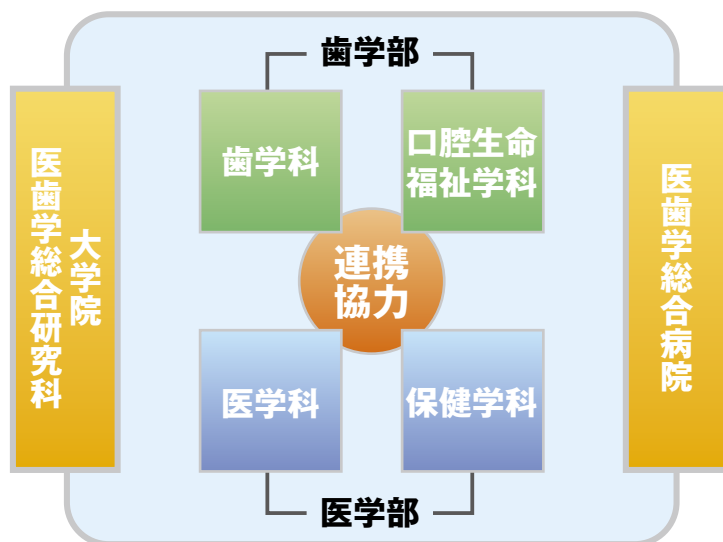
連携により実現する充実した教育環境

歯学部の臨床教育および臨床研究の中核を担っているのが医歯学総合病院（歯科）です。医歯学総合病院は、医学・歯科医学が相互に連携した全人的医療・臨床教育・研究の実践を目指して平成15年に従来の医学部附属病院と歯学部附属病院を統合したものです。歯科医学・医療の研究組織であり、歯学科の卒業生の進学先ともなる大学院も平成13年から大学院歯学研究科と大学院医学研究科が新潟大学大学院医歯学総合研究科として統合されています。これより従来にもまして、医学・歯科医学、基礎・臨床などが有機的に連携した最先端の研究が進められています。

新潟大学歯学部では27名の教授をはじめとして、
総勢約130名もの教員が熱意ある皆さんの入学を待っています。

新潟大学歯学部歯学科 アドミッションポリシー

1. 歯科医学・歯科医療、口腔生命科学の研究に対して高い目的意識を持った人
2. 人間性豊かで相手の気持ちを理解することができる人
3. 自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
4. 強い学習意欲を持ち、広い学識の修得を目指す人
5. 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけ、国語・外国語の文章読解力及び表現力と論理的思考力を備えている人





人間性豊かな考える歯科医師の
養成をめざす

歯学科

Department of Dentistry

新潟大学歯学部では、患者さんの痛みや苦しみを理解できる、あたたかみある人間性豊かな人材を求めています。また、困難な場面に直面した際、自ら問題を解決できる能力をもつ、創造性豊かな考える歯科医師を育てることを教育目標の一つとしています。

歯科医療は、口腔という特殊な環境や病気の性質から、問題解決能力と繊細な治療技術が求められます。さらに、人間を相手に治療を行うのですから、あたたかみのある豊かな人間性が求められます。

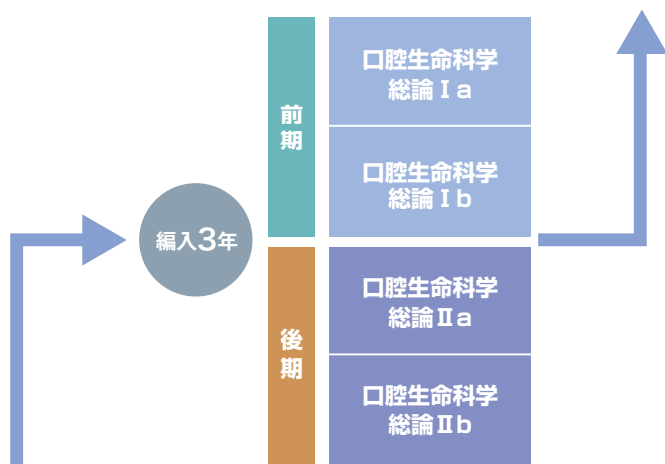
実践的な実習で確かな技術を習得

新潟大学歯学部では、従来の「歯」という小領域を中心とした学問の枠組みを見直し、歯学を口腔生命科学としてとらえ、これからの歯学界をリードする人材を育成する事を目的としています。学問の進歩、社会環境の変化などに対応するため、常にカリキュラムの見直しを行い、学生教育を行っています。

1年次には五十嵐キャンパスで他学部学生とともに教養教育に関する授業科目を学ぶとともに、医歯学総合病院（歯科）で歯科治療の現場を体験します。2年次になると学習と生活の場は旭町キャンパスへと移ります。「新潟発福祉学」「食べる」「顔」といった教養的な科目に加え、一部の専門的な科目が開講されます。この中には生体内でおこるさまざまな物理・化学的現象を学ぶ

生体工学や高度な分子生物学的内容を含んだ生化学、組織工学なども開講され、口腔生命科学を学んでいくために必要な基礎知識を履修し、3、4年次には講義コーディネーターにより工夫された専門教育に関する授業科目を学ぶとともに、治療技術を習得する模型実習が始まります。模型実習は少人数のグループごとにインストラクターが配置され、マンツーマンの指導が行われます。また、新潟大学歯学部が全国の歯学部にも先駆けて導入したコンピューターシミュレーションを用いたマネキン実習を行い病院で患者様の治療に当たる前に、より実践的な実習を経験することができます。さらに隣接医学の講義も開始されます。5年生に進級すると、実際の歯科臨床で遭遇するさまざまな

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
前期	教育教養に関する授業科目 早期臨床実習Ⅰ	口腔生命科学 総論Ⅰa 基礎科学Ⅰ 教育教養に関する授業科目 早期臨床実習Ⅱ	コミュニケーション論 選択実習Ⅰ 口腔生命科学 総論Ⅰb	口腔生命科学各論Ⅰ 隣接医学Ⅰ	総合口腔生命科学Ⅰ 選択実習Ⅱ 隣接医学Ⅲ	臨床実習Ⅱ
後期	教育教養に関する授業科目	口腔生命科学 総論Ⅱa バイオメディカルサイエンス 基礎科学Ⅱ 教育教養に関する授業科目	コミュニケーション論 選択実習Ⅰ 口腔生命科学 総論Ⅱb	口腔生命科学各論Ⅱ 臨床英会話 隣接医学Ⅱ	臨床予備実習 ※前期もあります（4月～始まります） 臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅲ 総合口腔生命科学Ⅱ



疾患を統合的に診断・治療していくために必要な理論・技術を学びます。5年生の5月からは臨床予備実習が始まり、11月から約1年間の臨床本実習が行われます。臨床本実習では、優秀な指導教員のもと、実際の患者様を対象に実習が進められ、歯科医師として必要な基本的な技術の習得、心構えなどを学んでいきます。

講義内容(シラバス)は冊子として学生全員に配布されるとともに、インターネット(<http://syllabus.niigata-u.ac.jp/>)上でも自由にみることができます。なお、各講義内容、講義方法に関しては学生による評価を行い、各教員はこれらの評価結果をもとに教育方法の改善に努めています。



自分で調べ、学ぶ少人数グループ学習



熱意ある指導

ゆとりと特色あるカリキュラム

新潟大学歯学部では平成12年度入学生から新カリキュラムのもとで学生教育にあたっています。新カリキュラムでは以下のような特色あるカリキュラムを編成しています。

1 ゆとりある教養教育

従来、1年生に限定したため、過密になりがちであった教養教育に関する授業科目を2年生でも履修できるようにゆとりある教育を受けることができます。

2 早期臨床実習

入学後まもない1年生から養護・介護施設を訪問し、医療現場を体験する実習や病院における歯科治療の第一線にふれる早期体験実習を実施し、モチベーションの高揚をはかります。

3 専門教育に関する授業科目の統合、再編成

従来からある分野単位の講義・実習を見直し、分野の枠を越えた講義体系としました。専門教育に関する授業科目を口腔生命科学総論及び各論、総合口腔生命科学の3つに再編成し、それぞれの講義、実習は講義・実習コーディネーターが中心となって企画・立案され、実行されます。講義・実習内容の重複を避けることにより、密度の高いバランスの取れた講義・実習を提供します。

4 社会環境への対応

マルチメディア時代に対応するため、コンピューター実習を取り入れています。また、国際社会に必要な不可欠な語学力を養うため、1年次から4年次まで語学教育を拡大しました。

5 実習科目の一部選択制

従来、すべて必修であった実習科目に、一部選択制を導入しました。このことにより、研究に興味のある人は研究体験実習を、介護・ボランティアに興味のある学生はボランティア実習を選ぶことができ、多様な経験を積むことができます。

6 学外研修施設での臨床実習

臨床実習の中に歯科治療の第一線で活躍している経験豊かな歯科医師のもとに出向き、指導を受けるプログラムが用意されています。



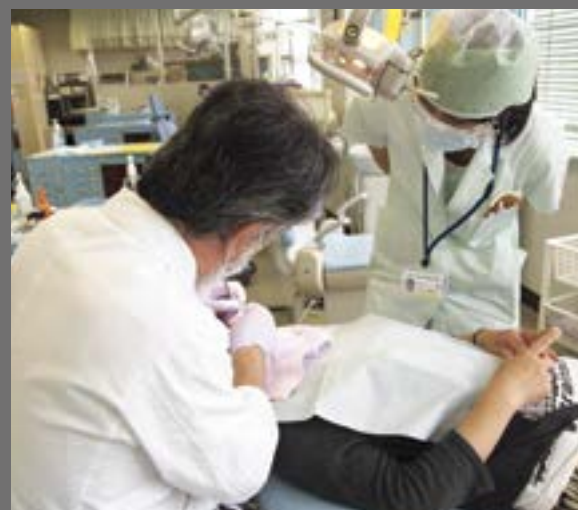
臨床実習用ユニットの前で仲間と一緒に



充実した臨床教育



マンツーマンでの指導



教授からの直接指導

医歯学総合病院(歯科)で行われる臨床実習は、これまで学んだ歯学の専門的知識・技術を実際の患者様を対象に応用し、体験を通して理解を深めるために行われ、患者様と歯科医師との人間関係を含めて、実際的なことを学びます。

臨床実習は、5年次の予備実習から始まります。予備実習では各科のオリエンテーション、カルテ記載法、電算機入力法などを学びます。患者様を対象とした総合実習は本実習と呼ばれ、5年次の秋から行われます。患者様一人一人の口の中を総合的に診

療するため、学生の診療室(歯科総合診療部)が設けられ、歯科総合診療部の教員と各科の教員が連携して指導にあたっています。この指導体制は本院の特徴であり、バランスの取れた歯科医師の養成を目標としています。

また、歯科総合診療部での実習のほかに、より高度な臨床知識・技術の習得を目的として、臨床各科でも実習を行っています。歯科総合診療部で体験できない治療の実習や、教員の臨床示説による研修、歯科検診などの公衆衛生的な実習、X線写真の診断、麻酔の研修を行っています。各科に分散したこの実習は、歯科



お口の中を検査する



最適な治療方針を検討する



自分で作った入れ歯を合わせてみる



口腔外科治療



むし歯の治療

医師として必要なさまざまな知識を、各科の専門医が実習を通じて教育することによって、より深く、より幅広く身に着けるのに役立っています。

卒業後の歯科研修においても、臨床各科において専門的なさまざまな研修が、研修医・大学院生に対して実施され、新潟大学医歯学総合病院（歯科）では、密度の高い充実した臨床教育が行われています。

実践的な実習で確かな技術を習得

6年生の2月初めに卒業判定が行われ、卒業見込みが確定すると、2月前半に歯科医師国家試験を受験します。歯科医師国家試験は全国の主要都市で実施され、新潟大学歯学部の卒業生は新潟市で受験します。試験約1ヶ月半後に国家試験の発表があり、めでたく合格すると歯科医師免許証を手にとることとなり、歯科医師としての第一歩を歩み始めます。

卒業後の進路

歯科医師免許を取得しても勉強していかなければならないことはまだまだあり、診療に従事しようとする歯科医師は1年以上大学に附属する病院や厚生労働大臣の指定する病院もしくは診療所で臨床研修を受ける必要があります(平成18年4月から必修化)。この場合、非常勤の歯科医師として、学生時代に習得した知識、医療技術をより高度なものにするため、優秀な指導者の的確な指導のもと、臨床研修をすすめ、自己の研鑽に努めます。

歯学部卒業後の進路はみなさんが考えているより狭くはなく、卒業生はさまざまな分野に進出し、活躍しています。病院や一般開業歯科診療所に勤務する者に加え、大学院に進み研究生活にはいり、博士号を取得する者、大学院で高度な専門医療技術を身につけ、博士号を取得する者、公衆衛生など歯科医療行政に進む者など、さまざまな進路があります。

また、日常の歯科診療のかたわら社会人で大学院に入学し、博士号を取得する者もいます。新潟大学大学院医歯学総合研究科では、このような社会人の生涯学習、リカレント教育の一環として、通常の大学院に進学できない人のための、昼夜開講制の大学院を開設しています。



研修医として技能向上に努める



大学院生として研究に打ち込む



臨床・研究の成果を学会で発表する

充実した研修医教育

厚生労働省の方針により、平成18年度から歯科医師の臨床研修が必修化(歯学部を卒業して歯科医師国家試験に合格するだけでなく、1年間の臨床研修を行い、修了認定を受けなければ独り立ちできないというシステムが導入)されました。この制度は卒業後の歯科医師の技術向上を基盤として、歯科医療全般の根本的な底上げを狙って始められたものです。

新潟大学では、伝統的に継続している臨床実習(指導教員の下で6年生が患者様を担当し、実際に治療を行う)に加えて、臨床研修(研修医が指導教員の下で治療を行う)の充実を図ってきました。本学における臨床研修の最大の特徴は、見学中心

ではなく診療参加型(研修医が治療を自分で行う)であることです。1年間に臨床研修医が担当する患者様の総数は全国でもトップクラスであり、様々な面で研修医をサポートする多くの指導教員がいます。また、研修医専用の居室や技工室(歯型の模型を作ったりする作業部屋)、診療台も整備されており、臨床研修中は自分の知識と技術を磨くことに専念できる条件が揃っています。新潟大学の歯科医師臨床研修プログラムは向上心のある研修医を全面的にバックアップするように組まれています。



「食べる」ことの視点から
あらゆる人のQOL (生活の質) の向上を
追求できる人材の育成をめざす

口腔生命福祉学科

Department of Oral Health and Welfare

歯科衛生士を養成する学校としては日本で最初の4年制大学課程であり、卒業により歯科衛生士に加えて、社会福祉士の国家試験受験資格が得られます。

専門ノウハウでスキルを磨く

1年生は五十嵐地区で行われる英語、体育実技、自然系共通専門基礎、人文社会・教育科学、医歯学などの教養教育に関する授業科目を中心に履修します。また、旭町地区で「歯学スタディ・スキルズ」と「早期臨床実習ⅠB」が開講されます。

2年生以上の専門教育に関する授業科目では社会福祉士としての科目を中心とした福祉学講座および歯科衛生士としての科目を中心とした口腔保健学講座の2講座を中心に行われます。

卒業判定に合格すると、4年生の1月には社会福祉士国家試験、3月には歯科衛生士国家試験を受験することができます。



学生によるプレゼンテーション

卒業により学士（口腔保健福祉学）の学位と 歯科衛生士及び社会福祉士国家試験受験資格を得られます。

	1年	2年	3年	4年
教養科目	英語			
	大学学習法、体育実技、自然系共通専門基礎、人文社会・教育科学、医歯学等			
専門科目		歯科衛生学、歯科衛生学実習、社会調査法、栄養学、医療倫理、高齢者・障害者歯科学、訪問歯科診療		
		臨床歯学演習、早期臨床実習ⅡB、人体のしくみ、疾病とその病態、衛生学・公衆衛生学、口腔の科学、歯科衛生士概論		
		歯科臨床概論、臨床歯科学、歯科診療補助		
			社会福祉原論、障害者福祉論、児童福祉論、高齢者福祉論、社会保障論、公的扶助論、保健医療制度、地域福祉論、社会福祉行政、社会福祉経営、権利擁護と成年後見	
			社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉現場実習指導	
	早期臨床実習ⅠB		社会福祉現場実習、歯科衛生士臨床実習	

教養教育に関する授業科目

コア科目

福祉関係科目

口腔生命科学科目

教育理念と教育目標

教育理念

指導的専門職業人(歯科衛生士・社会福祉士)として、保健・医療・福祉に関する深い理解と専門的知識に基づき、これらを総合的に思考・展開できる人材を育成します。

教育目標

- 1 オーラルヘルスプロモーション(口腔の健康増進)を理解し、展開できる人材の育成
- 2 患者様・利用者の方が真に必要なとする保健医療福祉を総合的に提供できる人材の育成
- 3 自ら課題を発見し、その解決に向けた自発的な生涯学習を行うことができる人材の育成
- 4 幅広い関係者とのチームワークに基づく効果的な業務が行える人材の育成

少人数制主体的な学習

実際の現場で直面する場面にに基づき、総合的に学習することができるよう少人数制による教育を実施します。

充実した教授陣

総合大学である新潟大学の特質を生かして、他の学部や歯学科、関係機関など密接に連携して第一線の専門家による教育が行われます。

充実した学習環境

新潟大学医歯学総合病院、行政関係施設、福祉施設などと連携し、将来の現場に即した実習を行います。

アドミッション・ポリシー

- 保健・医療・福祉に対し高い目的意識をもった人
- 患者・利用者の方の痛みや苦しみを理解できる人間性豊かな人
- 自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
- 地域医療・福祉への貢献・向上に努めたいと思っている人
- 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけ、国語・英語の文章読解力及び表現力と論理的思考力を備えている人



PBLでの全体発表とまとめ



バイタルサインの測定実習



歯科衛生学実習



歯科の基礎を学ぶ

歯科衛生士とは

歯科診療所や病院の歯科口腔外科などで患者さんに対して、歯石除去や口腔衛生指導、歯科診療の補助行為を行うことが許されている歯科医療専門職の重要なスタッフです。また、市町村保健センターや企業の健康管理センターなどで、歯科保健サービスとして、むし歯などの予防処置や歯科相談・指導に従事する人もいます。歯科医療全体が治療から予防にシフトすることに伴い、歯科衛生士の活躍の場がますます広がっています。



なぜ2つの資格が必要か？

食べることは生きるための基本であり、要介護者や障害者の方にとっても「おいしく食べる」ことは最も重要な生きがいです。しかし、単純に見える「おいしく食べる」と一つとっても、食べるために歯や入れ歯の治療をする人、障害のリハビリテーションや病気の予防を行う人、食事や日常生活の介護をする人など多くの保健・医療・福祉関係者の十分な連携がなくてはその実現は困難です。そこで、口腔生命福

祉学科では、歯科衛生士と社会福祉士という2つの資格を取得することにより、口腔や食べること（摂食・嚥下）についての高度な専門知識をもったうえで、保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる専門家を養成し、こうした要介護者、障害者の方々が真に必要な適切な保健・医療・福祉サービスを総合的に受けられる社会を創ることを目指しています。



歯科衛生学実習



高齢者疑似体験実習



障害者福祉施設での体験実習



保育園での歯科保健指導

こんなところで活躍しています。

歯科衛生士

- 歯科診療所
- 病院の歯科・歯科口腔外科
- 保健所・市町村保健センター
- 企業などの保健管理部門
- 大学・短大・専門学校 ほか

社会福祉士

- 特別養護老人ホーム
- 地域包括支援センター
- 障害者療養施設
- 福祉事務所、社会福祉協議会
- 児童相談所、児童養護施設
- 病院 ほか



社会福祉士とは

老人ホームなどの社会福祉・介護保険施設や地域包括支援センターなどで日常生活に困られている方を対象に、福祉の相談や指導・助言を行う福祉の専門家です。病院などで入院患者様の退院後の保健・医療・福祉サービスの相談・調整を行うメディカルソーシャルワーカーとして従事する人もいます。高齢化に伴い、様々な背景を持った介護を必要とされる方(要介護者)が増加しており、社会福祉士の仕事はますます重要になっています。

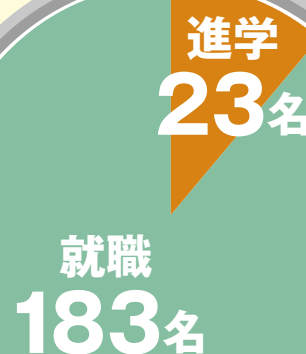
卒業後の主な進路



2007～14年度 1～8期生実績

卒業後の主な進路としては

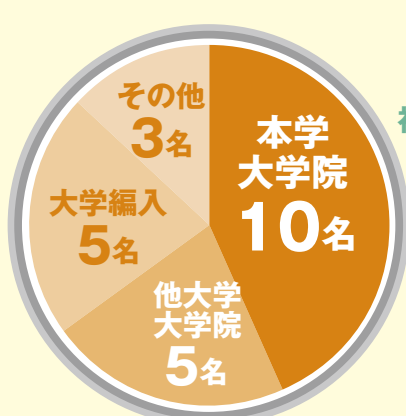
- 病院・歯科診療所における診療スタッフ(歯科衛生士)のほか、
- 病院等におけるソーシャルワーカー
- 社会福祉施設の生活相談員、介護支援専門員などの入所者等の相談指導、マネジメントを行う職員
- 行政における保健福祉部門(保健所、福祉事務所、市町村保健センター等)の専門職など
- その他、社会福祉協議会等の団体技術職員
- 歯科衛生士または福祉関係職の専修学校・大学等の教員、研究者などがあげられます。



進学 **11** % 就職 **89** %

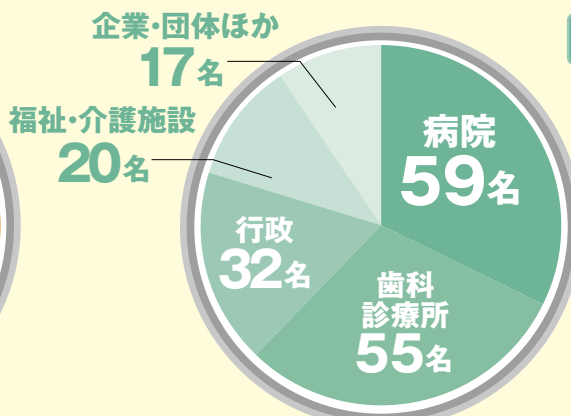
● 2007～14年度(第1期生～8期生)の進学・就職実績の内訳

進学



新潟大学医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻、同 医科学専攻、東北大学大学院、慶應義塾大学大学院、上智大学大学院、新潟大学歯学部歯学科編入、広島大学歯学部歯学科編入、九州大学歯学部歯学科編入、国立障害者リハビリテーションセンター言語聴覚士科 他

就職



新潟大学医歯学総合病院、富山大学医学部附属病院、信州大学附属病院、昭和大学附属病院、新潟市民病院、前橋赤十字病院、長野赤十字病院、新潟医療センター、長岡赤十字病院、亀田総合病院、新潟県庁、新潟市役所、福井市役所、さいたま市役所、町田市役所、鶴岡市社会福祉協議会、サンスター、ワークセンター日和山、新潟市地域包括支援センター 他

歯科医療をリードする
医歯学総合病院（歯科）

医歯学 総合病院

Medical & Dental Hospital

新潟大学医歯学総合病院は、日本海側唯一の医歯学総合病院として、環日本海における歯科医療の拠点として活動しています。医歯学総合病院では150人以上の教員が診療に従事し、学生、臨床研修医の教育にあたっています。



専門歯科医療の拠点

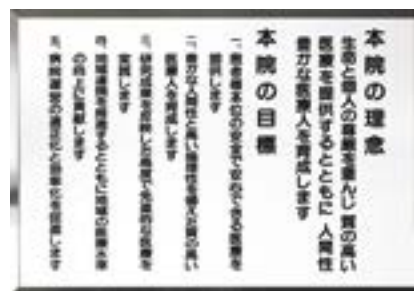
医歯学総合病院の歯科診療部門には町の歯医者さんではあまり目にすることのないようなさまざまな診療科があります。各診療科では通常の歯科治療に加え、それぞれの専門領域の診療を行っています。また、きわめて先進的な治療を必要とする患者様に対しては、各診療科ごとに専門外来をもうけています。たとえば、口のにおいの気になる人に対しての口臭外来、歯の色が変わって悩んでいる人に対する変色歯外来、歯にかぶせた金属によりアレルギーを起こす人のための金属アレルギー外来、いびきに悩む人のためのいびき外来などが開設され、各分野の専門家が治療にあたっています。

さらに、医歯学総合病院の歯科診療部門では障がい者や高齢有病者の治療、唇顎口蓋裂の治療、顎関節の治療を、各診療科の協力のもとに行っています。また、口の中にできた悪性腫瘍（がん）やあごの骨折などに対しては、歯科麻酔科による全身管理下のもと大がかりな手術も数多く行われています。近年ではさまざまな病気をもつ患者様に対し、短期間の入院により、集中的に歯科治療なども行っています。

医歯学総合病院には、新潟市内はもとより遠方からも、一日平均500人を超える患者様が歯科診療のため来院しています。患者様の数が多いことは、臨床研究や臨床技術の向上につながり、さらに、学生の臨床教育や歯科医師、研修医の臨床研修の充実につながります。

また、医歯学総合病院の歯科診療部門では、最先端の歯科医療をはじめ、あらゆる分野の歯科医療を行うとともに、歯科総合診療部での学生臨床実習を通して歯科医師を養成しています。

医歯学総合病院の歯科診療部門では、常に診療の向上を目指して最新の治療技術と診療機器を使い、環日本海の歯科医療の拠点病院として患者様の診療にあたっています。



マイクロスコープを用いた歯科治療



手術室での手術



外来での小手術



患者様に優しい画像診断

医歯学総合病院の歯科診療関連部門

新潟大学医歯学総合病院では歯科診療部門として4診療科、12診療室等を有し、特色ある外来も16部門が用意されています。環日本海における歯科医療の拠点として活動をしています。病院では150人以上もの教員が診療に従事し、学生、臨床研修の教育にあたっています。

口腔外科系歯科

- 口腔再建外科
- 顎顔面口腔外科
- 歯科放射線科
- 歯科麻酔科

矯正・小児系歯科

- 小児歯科・障がい者歯科
- 矯正歯科

予防・保存系歯科

- 予防歯科
- 歯周病科
- 歯の診療科

摂食機能・補綴系歯科

- 冠・ブリッジ診療科
- 義歯診療科
- 口腔リハビリテーション科

歯科に関する中央診療施設など

- 歯科総合診療部
- インプラント治療部
- 顎関節治療部
- 摂食嚥下機能回復部
- お口の健康室
- 言語治療室

特色ある専門外来

いびき（睡眠呼吸障害）外来
歯の移植外来
培養粘膜移植外来
口唇裂・口蓋裂外来
障害者・有病者歯科全身管理外来
歯科心身医学外来

歯科ペインクリニック外来
口臭外来
CAD/CAM外来
変色歯外来
金属アレルギー外来
咬み合わせ機能検査外来

くちのかわき（ドライマウス）外来
味覚外来
顎顔面補綴外来
医療連携口腔管理チーム

歯学治療は急速に進歩しています。身体にやさしいさまざまな材料の開発・応用、学問の発展による診断技術の向上、かみ合わせ（咬合）の仕組みの解明、コンピューターの歯科治療への導入などが行われています。新潟大学医歯学総合病院ではアカデミックマインドに立った歯科治療の開発、診断、応用がなされています。また、複数の専門家が集まり、診療チームをつくり、難しい症例に対しても積極的にアプローチし、治療し、良好な成績をあげています。

口の臭い、気になりますか（口臭外来）

口臭外来には口臭の原因物質である揮発性のイオウ化合物を検査するガスクロマトグラフィーという分析機械（写真左）がおりてあり、口臭の予防、診断、治療を行っています。右写真は典型的な口臭患者様の口の息を計ったもので、3種類のイオウ化合物が同時に検出されているのが分かります。



歯の色を白くする（変色歯外来）

子供の頃、ある種の薬を飲み続けると、永久歯にひどい着色をおこします。このような歯に対して、本来の歯の「白さ」をもどすために、歯の表側の表面を極薄く削り取り、薄いセラミック材でできた歯のお面をつくり、特殊な接着材で貼付ける方法がラミネートベニア修復法です（右写真）。その他に歯の外傷や加齢などにより黄ばんだ歯を漂白するホワイトニングや歯のマニキュアによって歯を白くすることができます。



コンピューターで詰め物をつくる（歯の診療室）

CAD/CAM装置という加工装置を使うと、これまで歯科技工士さんの熟練した技術が必要としていたセラミックの詰め物を、歯科医師によってすぐにつくることができます。コンピューターが削られた歯の形を自動的に認識し、精度が高く美しい詰め物を削りだします。診療をうけている患者様のそばでつくることもでき、治療の回数を減らすことも可能です。



第三の歯（インプラント治療部）

失ってしまった歯の部分に金属の支柱（インプラント）を植えて歯の代わりにする治療が広く行われるようになってきました。歯がなくなってしまうと、噛みにくいのはもちろん、残った歯の歯ならびも悪くなります。歯茎を切り開き、あごの骨に穴をあけ、インプラントを植えます。インプラントの周りに骨がで、傷が治ると、その上に冠をかぶせます。エックス線写真ではインプラントと骨がくっついている様子がよく分かります。



失った骨、歯茎をつくる/GTR法（歯周組織再生外来）

歯周病（歯槽膿漏）が進行すると、歯茎の腫れや出血にとどまらず、歯を支えている骨が溶けていきます（写真1）。この失われた歯茎や骨を再生させる最新の治療法がGTR法です。歯茎を切り開き、病気の部分を取り除くと、骨が露出しますが（写真2）、ここに特殊な膜をおき、傷の治りを待ちます（写真3）。1年後には骨ができたことがエックス線写真で確認できます（写真4）。



歯顎顔面用コーンビームX線CT装置（画像診断・診療室）

待望のコーンビームCTが2008年5月に導入されました。撮影時間は10秒足らず。アームが頭の周りを1回転するだけで、縦・横・奥行き、どの方向も均等で精密な分解能を備えたボリュームデータが得られます。撮りたい部分を絞って撮影すれば、細かいところをさらに明瞭に観察できます。X線被曝も通常の医科用CTと比べるとずっと少なく、インプラントの術前診査や、埋伏歯と周囲歯周組織の評価などで活躍しています。右の写真は埋伏歯の診断画像です。



いびきに注意 (いびき外来)

いびきのひどい人は昼間の眠気が強くて、仕事上のミスや交通事故を繰り返していることがあります。これは眠っている間に呼吸が止まり、窒息状態になり、そのたびに睡眠が中断されることで睡眠不足になっているためです。これが「睡眠時無呼吸症候群」と呼ばれるもので、放置すれば突然死やさまざまな病気を引き起こします。右のようなマウスピースを口の中にいれたり、レーザーでのどの奥を広げるなどの治療があります。



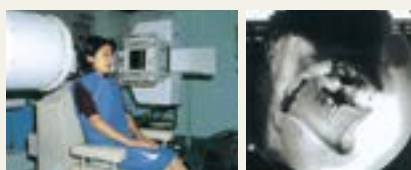
噛み具合を色で見る (義歯診療室)

上と下の歯のかみ合わせの様子を地図の等高線のように、色で表す装置が設置されています。強く噛み込んでいるところはコンピューター画面上で青く表示されています。色の表示によって上と下のどの歯がどのように接触しているかが簡単に調べられ、よりよい噛み合わせの冠をかぶせることができます。



X線テレビ撮影装置 (加齢歯科診療室)

ものを飲み込むメカニズムを知ることは、お年寄りが増えた現在、介護をする上で、非常に重要になってきています。このエックス線テレビ撮影装置を用いると、患者様が食べ物を飲み込んだ様子をはっきりと知ることができます。この装置は少ないエックス線の量で、ものを飲み込む様子を連続的に観察することができるので、飲み込みの障害の診断に効果を発揮しています。



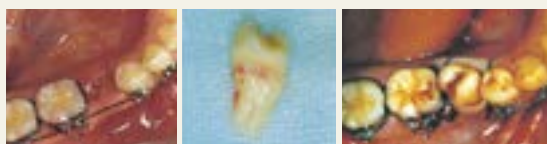
手術で歯ならびを治す (矯正歯科診療室)

歯ならびの悪い人の中にはあごの骨が大きかったり小さかったり、あるいは非対称であったりする人がいます。このような人に対しては、ふつうの歯ならびを治す方法だけでは不十分で、歯ならびの治療を専門とする矯正歯科医と手術を専門とする口腔外科医がチームをつくり、共同で歯ならびの治療を行います。



歯を移植する、保存する (歯の移植外来)

歯を抜かなければならない場合、親知らずなどをその部位に移植して、かみ合わせ機能を回復させる治療法があります。また、比較的健康的な歯を抜いた場合、その歯を凍らせて保存しておき、後日解凍して移植する方法もあります。どちらの場合も、移植した歯が良好に生着すれば他の健康的な歯と同様の機能を果たすようになります。写真は、下の歯が欠損した部分に上の歯を移植した場合です。



口の粘膜を再生する (培養粘膜移植外来)

培養粘膜移植とは「自分の細胞を培養技術を使って増やし、自分の身体に返す」という方法です。口の中の手術やケガなどによって口の粘膜が欠損することがありますが、縫い寄せられないような大きな傷に対して、あらかじめ口の粘膜の小片を採取、培養して細胞を増やしておいて(写真1)、欠損した部分に移植する(写真2)ことができます。皮膚を移植する場合や動物の材料を移植する場合に比べて、術後の障害は少なくなります。



最新の研究機器を導入し
口の中のさまざまな
研究を行う

大学院 医歯学 総合研究科

Graduate School of Medical and Dental Sciences

新潟大学歯学部では最新の研究機器を導入し、口の中のさまざまな研究を行っています。むし歯や歯周病といった歯医者さんの治療に関係することはもちろんのこと、一見、歯の治療とは無関係に思えるような「口の科学」の広範な研究を行っています。



歯学部には所属する教員の力はもとより、若くて柔軟な頭をもった大学院生の力が最新の研究を進める原動力です。新潟大学歯学部で得られた研究成果は国内はもとより国外でも高い評価を受け、数多くの英文雑誌に掲載されています。最新の研究成果は学術分野の進歩に貢献しているばかりでなく、歯科臨床に応用され、新潟大学歯学部は日本、世界の歯科医学研究の情報発信基地として活躍しています。

謎をひもとく最新の電子顕微鏡

これまでの電子顕微鏡は小さな構造の内部をみるものでしたが、電子エネルギー損失分光電子顕微鏡 (EELS) は、物質の形と組成を同時に観察することのできる最新の電子顕微鏡です。骨がつくられる瞬間をとらえたのが、右の写真です。骨をつくる細胞(骨芽細胞、OB)によって、青色で示すカルシウム (Ca) の沈着がおこり、徐々に骨 (Bone) がつくられる様子がわかります。日本の大学で最初に設置された研究機関が新潟大学歯学部です。



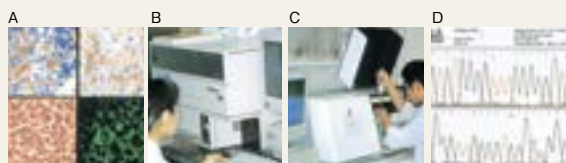
レーザー光線で見える

レーザー光線とコンピューターをつかった最新の顕微鏡が共焦点レーザー顕微鏡です。からだのいろいろな組織や細胞の細かい構造を生きたままでも観察することができ、また非常に厚い標本も観察できるという利点があります。また、コンピューター処理により、細胞の大きさなどが瞬時に画面上に表示でき、生物学研究での応用価値は高い顕微鏡です。



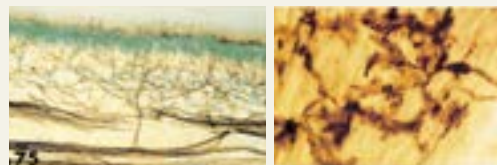
歯周病になりやすい人、なりにくい人

歯周病(歯槽膿漏)は歯茎中の白血球 (図A) が歯茎や骨を破壊することにより進行します。白血球の種類や役割は、フローサイトメトリーという細胞測定装置 (図B) を用いることにより、簡単にかつ定量的に調べることができます (図C)。また生まれつき歯周病になりやすい人がいるようです。歯茎や骨の破壊に関係する遺伝子 (図D) を調べ、歯周病の診断に役立たせています。



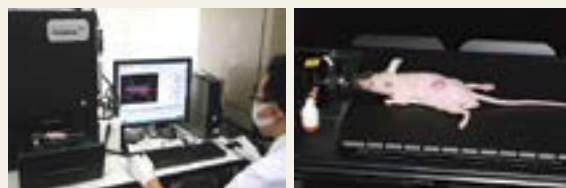
歯の痛み、噛みごたえのセンサー

歯にはたくさんの神経が来ています。冷たいものを飲んだときの痛み、虫歯のときの痛み、歯と歯の間に髪の毛1本挟まったときの感覚も神経が伝えます。歯にきている神経を目にするのは難しかったのですが、特殊な方法で神経線維を染めだすことができるようになり、その詳細がわかってきました。



人工的な骨を近赤外線で見える

ヒトの細胞から人工的に臓器組織を創ることを組織工学といいます。基礎研究と臨床医学の橋渡しをする役割を担っているとも言えます。右写真はヌードマウスの背中にヒトの骨を作らせているところですが、このような技術開発とともに重要なのが、その性能を評価する技術を開発することです。左写真はこの人工骨の骨形成活性を近赤外線蛍光イメージングによって、マウスを傷つけることなく評価しようという試みです。比較的安価な装置ですが、被曝もなく、短時間のうちに定量的の高い評価ができるというメリットがあります。



食べ物を飲み込む

健康なときには何の苦もなく食べ物を飲み込めますが、お年寄りや脳卒中の患者様では飲み込み機能に障害がみられます。右写真のように食べ物が気管に入ると、むせて苦しい思いをしたり、時には肺炎で亡くなることもあります。歯学部では食べ物を口に入れてから飲み込むまでを最新の設備を使って総合的に研究し、写真のように上手に飲み込めない患者様の訓練や治療を行っています。



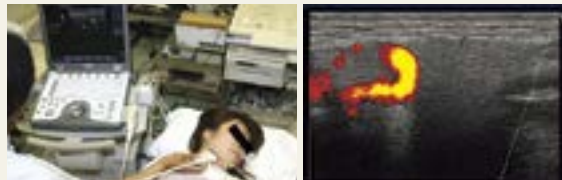
食べるための脳の仕組み

食べるためには脳のどの部位が重要なのでしょう？頭の外から脳を磁気で刺激し（左図）、食べるための筋肉の反応を調べるための研究が進められています。「食べる」ことへの脳の関わりが詳しく調べられています。



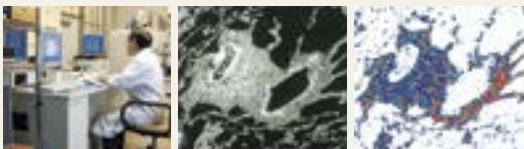
超音波で心の揺らぎを科学する

ストレス社会と言われる現在、ストレスに起因していると思われる様々な病態が注目されています。誰もが経験されたことがあると思いますが、緊張による口の渇きもその一つです。唾液は血液から作られますので、超音波診断法を使って唾液腺内の血流の変化を評価したところ、ストレス等による自律神経異常が定量的に評価できることが示唆されました。新潟大学歯学部ではこの結果を利用して、ストレスの新たな評価法やドライマウスの新たな診断法の確立を目指しています。右写真は超音波診断を行っているところです。



元素分布を目で見る

電子線マイクロアナライザーは、電子線を試料に照射し、非常に狭い領域にどのような元素が存在するかを分析する装置です（左図）。金属材料、無機・有機材料、生体生物試料を問わず、物質構造の分析には不可欠の装置です。この装置に高速マッピング装置が附属しており、原子の濃度分布がカラーで表示されます。右2枚は、塵肺患者の肺組織切片を分析したもので、中図は形態を示す白黒写真で、右図は珪素の濃度分布をカラーで表示した結果です。



口の中の細菌

むし歯や歯槽膿漏は一種の細菌感染です。口の中にはさまざまな細菌がありますが、これらの病気の原因となる細菌については分らない点が多くありました。嫌気グローブボックスは酸素を嫌う細菌を培養する装置で、これを使うことにより口の中の細菌が、酸素を必要とする細菌より酸素を嫌う細菌の方が圧倒的に多いことが分かってきました。



国際機関や国内機関の保健医療専門家の育成を目指したプログラムとして、「口腔保健医療に対応した国際イニシアティブ人材育成プログラム」を開発・実施しています。
本プログラムについてはホームページ
(<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/hrdpii/index.html>)を参照願います。

海外の教育研究機関との交流

新潟大学歯学部は世界各国の大学と研究交流をしています。本学部が中心となって大学間で姉妹校提携している大学として、米国ミネソタ大学(昭和57年度)と中国ハルビン医科大学(平成5年度)とタイ・コンケン大学(平成24年度)があります。また、学部間では、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部(平成元年度)、バングラディッシュ・ダッカ大学(平成6年度)、中国昆明医学院口腔医学系、ルーマニア・カロルダビラ・ブレスト医科大学歯学部(平成7年度)、フィリピン大学歯学部(平成8年度)、マニラ・セントラル大学歯学部、インドネシア・ガジャマダ大学歯学部(平成9年度)、中国吉林大學口腔医学院、メキシコ・コアウイラ自治大学歯学部(平成11年度)、バングラディッシュ・BSM 医科大学歯学部、タイ・タマサート大学歯学部、プリンスオブソンクラ大学歯学部、フィリピン・イースト大学歯学部、バングラディッシュ・ユニバーシティ 歯科大学(平成12年度)、バングラディッシュ・シティ 歯科大学、スリランカ・ペラデニア大学歯学部(平成16年度)、インドネシア大学歯学部(平成19年度)、台湾・陽明大学歯学部、韓国・安東科学大学歯学部(平成21年度)、モロッコ・モハメドVスーシー大学歯学部(平成23年度)、タイ・チェンマイ大学歯学部(平成24年度)、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学歯学部、ロシア・クラスノヤルスク国立医科大学歯学部、パシフィック医科大学歯学部、ミャンマー・ヤンゴン歯科大学(平成25年度)、ミャンマー・マンダレー

歯科大学、米国ペンシルバニア大学歯学部、ベトナム・ホーチミン医科薬科大学歯学部、ハノイ医科大学歯学部(平成26年度)、スウェーデン・マルメ大学歯学部(平成27年度)との姉妹校協定を締結しています。これら各大学との共同研究、セミナー開催など活発な研究交流が行われています。

外国人留学生・教員の受け入れ

新潟大学歯学部には世界各国から最新の歯科医学を学びに多数の留学生が在籍しています。これら外国人留学生は五十嵐キャンパスで日本語教育を受けた後、大学院医歯学総合研究科に入学し、日夜研究に励んでいます。現在までにインドネシア・ペルー・アフガニスタン・サウジアラビア・中国・バングラディッシュ・ボリヴィア・ニカラグア・チュニジアなど多数の国から留学生を受け入れてきました。また、大学院修了後、その研究成果や活動が評価され、教員として採用されて学生教育にあたっている人もいます。

教員の海外研究派遣

海外での共同研究や研修のため、留学する教員も多数います。留学先は欧米各国ならびにアジア諸国と広範囲です。海外研究により本学部における教育・研究内容を広く紹介して意見交換を行い、本学部でも教育・研究の発展に反映させています。また、積極的に海外で開催される国際学会にて研究成果を発表する教員も少なくありません。



バングラディッシュ・シティ大学での講演会



大学院生の受け入れ



外国人教員による教育

歯学部学生の国際交流

歯学部長からのメッセージ -海外留学へのいざない-

1994年、私は文部省在外研究員として、アメリカ・シアトルにあるワシントン大学医学部に留学しました。当時はまだ、日本の大学の一部でインターネット、Eメールが使えるようになったばかりであり、アメリカと新潟の連絡手段は電話、ファックスしかありませんでした。それから約20年、IT機器の進歩はめざましく、外国にいても即座に日本の情報が手に入り、またスカイプ等を利用して気軽にコミュニケーションがとれるようになりました。しかし、文明の機器がいくら発達し、便利になっても、人と人の付き合いは直に接し、異なる習慣・環境の中で暮らし、その文化を知らなければうわべだけのものになってしまいます。

グローバル化が叫ばれて久しいにもかかわらず、外国に出る若い人達数は年々少なくなっています。危機感をいだいた政府は厳しい財政状況の中、若者達に海外交流を経験させるためにさまざまな支援を行っています。その中の一つのパログラムにショートステイ・ショートビジット事業(略してSSSV事業)があります。この事業を活用して、新潟大学歯学部では短期学生派遣、短期学生受け入れを行い、短期外国留学を経験した学生達で国際交流サークルを結成し、情報交換、外国人学生の生活支援などさまざまな活動を行っています。この制度を活用し、第1歩を踏みだしましょう。世界の若者達が君達の来訪を待っています。

硬い殻を破り、勇気をもって、世界への扉を開こう。言葉は関係ありません。言葉は後からついてきます。

歯学部の短期留学プログラム

新潟大学歯学部では、歯学部在学中の国際交流を重点的に推進しています。学部長からのメッセージにあるように、本学歯学部の交換留学プログラムは2011年度より、日本学生支援機構(JASSO)による留学生交流支援事業(ショートステイ/ショートビジット、略称SSSV)に採択され、多様な学生の受け入れや派遣を行っています。本事業では旅費・滞在費の一部が支給され、2011～2012年度に39名の歯学部生を外国の大学歯学部へ派遣し、また40名の学生を受け入れました。派遣先はタイ、インドネシア、台湾、メキシコ、スリランカ等、受け入れ先はこれらに加えてインド、モロッコ等多岐に亘り、お互いに10日～2週間程度滞在します。派遣先ではそれぞれの国や地域の特性を活かしたさまざまな短期研修プログラムが組まれており、参加した本学歯学部生は日本とは異なる環境で貴重な経験を行うことができます。また、来学した学生たちも、本学教員による英語の講義・実習を通じた学習の他、本学学生との交流、日本文化や新潟の食を楽しんでいます。若いうちに外国で学び異文化を知ることは、大きく見聞を広げる良い機会になります。

新潟大学歯学部を目指す受験生のみなさんも、ぜひ、入学と同時に国際人への第一歩となるこのチャンスをつかんでください。

国際交流サークルNEXUSの活動

歯学部では2011年度に国際交流サークル<NEXUS>を立ち上げました。交換留学関連の活動を中心に、英語による研究発表会への参加など様々な活動をしています。今後は、英語力向上を目的とした英会話クラスの開催なども検討しています。

クラブのように楽しみながら、国際的な感覚を身につけることを目指しています。

Blogもご覧ください → <http://dentiigatauniv.blog.fc2.com/> (パスワードは9518514を入力してください)

国際交流



International Exchange





田村 光
歯学科6年

人と触れて学ぶ。

新潟大学歯学部最大の特徴は臨床実習です。

1年次には他学部の学生といっしょに教養科目を学びます。2年次から基礎医学の講義が始まり、3年～5年前半までに模型実習や学生相互での実習などを行います。そして5年次後半から1年間臨床実習を行います。

臨床実習では、実際に患者さんのお口の中を見たり、診査をしたりして先生と相談した上で治療計画を立てます。さらに虫歯・歯周病の治療や銀歯・入れ歯の製作、歯を抜くなど様々な治療を勉強しながら行っています。

学生でありながら、患者さんと向き合い、ここまで治療をさせていただけるのは、本当に限られた大学でしかできません。私自身、不安や緊張もありますが、時に厳しく時に優しい先生方にご指導やサポートをいただきながら日々懸命に取り組んでいます。

この他にも新潟大学歯学部には魅力ある特徴があるのでご紹介します。

まず、カナダ、アメリカ、タイ、インドネシアなど外国の大学の歯学部への短期留学が盛んに行われています。たくさんの出会いがあり、貴重な経験となります。

また、学生研究も行うことができます。先生方の手厚いご指導を受けながら、学生のうちから研究を体験できます。課題設定から実験、ポスターでの発表まで行えます。

部活やサークルも充実しています。部活動では毎年各地で行われる全国の歯学生が集まる大会を目指して練習に励んでいます。

その他にも歯学部全体で行われる運動会や、各種球技大会などもあり、同級生や先輩、後輩、先生方とも仲を深めるきっかけになります。

また、医学部との合同で文化祭も行われています。アーティストを呼ぶなど、中規模の文化祭となっています。他学部と交流できる機会でもあります。

若い時間の6年間をどう過ごすのか、新潟大学歯学部には多くの選択肢があります。自分自身の意志や希望で視野を広げて様々なことに挑戦できます。どんな学生生活にするのか、きっと自由な未来が待っています。



小松 貴紀
歯学科6年

The future

新潟大学歯学部に入學してしばらくたちました。新潟大学歯学部は入學前の想像以上に本当にすばらしいところで、とても充実した環境で大学生活が送れています。

まず、5年生から6年生にかけて行われる臨床実習は非常に魅力的です。臨床実習とは、学生のうちから実際に患者さんを治療する実習で、全国でこれを行っている大学はほとんどなく、非常に貴重な体験ができます。皆さんは、知識を詰め込むだけで一人前の歯科医師になれると思っていませんか？歯科医師は毎日患者さんの抱える問題に直面し、それに対する診断を自分で考え、治療を行っていかなければなりません。ですから、講義形式の受動的な学習方法だけでは、そのような力は身に付きません。臨床実習はそんな問題を解消してくれるすばらしい実習だと思います。

新潟大学では学習カリキュラムが綿密に組まれており、とても充実しています。学習する事が多い歯学部で段階的に学習ができ、「本当に自分がやっていけるのか」という心配は不要です。また、先生方もとてもフレンドリーで優しく、丁寧に教えてくれます。先生方からはよく「学生さん」という言葉を耳にしますが、これは先生方が日頃から学生を第一に考えてくださっている表れだと思います。また、歯学部には卒業研究がありませんが、学生の中には研究室の先生について研究、発表をしている人もいて、意欲のある学生は積極的に学習できる環境が整っています。

さらに新潟大学では近年、国の援助をうけて大人数の海外派遣を行っています。単なる旅行では絶対体験できない、非常に意欲のある他国の学生さんと知り合ったり、他大学のプログラム、環境など身をもって体験したりする事ができます。「自分は英語がちょっと…」という方も心配ありません。実際ほとんど英語が話せなかった私の友人も、このプログラムで英語がかなり上達して話せるようになって帰ってきました。

新潟大学歯学部はこのような本当に充実した環境が整っています。私はこの大学にきて何一つ後悔していません。歯学を志す学生さん、ぜひここで一緒に学びませんか？



浅利 早紀
口腔生命福祉学科4年

口腔生命福祉学科で得られるもの

「口腔生命福祉学科」と聞いてみなさんは何を学ぶ科であると想像するでしょうか。口腔生命福祉学科では「歯科」と「福祉」について学び、歯科衛生士と社会福祉士という2つの資格の習得を目指します。なぜ歯学部なのに福祉も勉強するのかということをよく聞かれることがあります。一見すると関連性の無さそうな2つの分野ですが、今後さらなる高齢化が進もうとしている日本において非常に重要な課題の一つとなるのが医療と福祉の連携です。そこで、「歯科」と「福祉」の両面から学ぶことによって、広い視野から問題を考えることができる能力を養い、様々な職種の方々と連携の下、患者さんや利用者さんにとって必要な保健医療福祉の提供を目指します。

1年生のときは五十嵐キャンパスで教養科目を学び、他の学部の学生との交流の機会も多くあるのでキャンパスライフを楽しむことができます。2年生からは旭町キャンパスでいよいよ専門科目を学び始めます。2、3年生では座学や相互実習や福祉施設の見学などを通して専門的な知識を身につけるために学びます。4年生では実際に病院に出て行う歯科の臨床実習や学外の福祉施設に別れて行う福祉現場実習が始まります。

また、大学生活は自分次第でいくらかでも充実したものにできます。学業だけでなく、部活やサークル、アルバイトなどの様々な経験によって新しい発見や交友関係が見つかるかもしれません。2つの資格習得を目指すため大変そうだと考える方もいると思いますが、心配しなくても大丈夫です。私たちには4年間を共に過ごす心強い学科の友人達やサークルや部活の仲間、時に優しく時に厳しく熱心にご指導してくださる先生方などの沢山の味方がいます。色々なことに積極的に取り組むことで得るものは大きいと思います。そうして得たものを自分の力にして大学生活をぜひ充実したものにしてください。



堀野 一人
新潟県立吉田病院歯科口腔外科
昭和60年卒業

ようこそ新潟大学歯学部へ

北海道函館市出身の私がなんで新潟大学歯学部へ、と何度も聞かれた覚えがある。確固たる信念の元を選んで進路ではなかったし、特に大きな理由があった訳ではない。しかし今は、はるばるやってきた新潟大学歯学部を卒業して新潟の地で歯科医師としての仕事をできる事に誇りを持っている。新潟という地には素晴らしい風土、暖かい人間性があるからである。卒業後は大学で教育や研究に情熱を傾ける、開業して地域医療に意欲を燃やす、私のように病院歯科に勤務し、医科との連携の中で二次歯科医療に従事する、などの進路がある。限られた進路ではあるが、その中で自分を磨き、常に前を向く。そんな生き方の基礎を作ってくれたのが新潟大学歯学部であったと思う。歯科医師過剰時代と言われて久しい。しかし、だからこそやりがいがあると言える。新潟大学歯学部は君達の努力を無駄にはしない。前を向く限り常に背中を支えてくれるところである。来たれ！大志ある諸君よ！



山田 浩之
新潟県長岡市開業
昭和62年卒業

新潟大学歯学部を目指すあなたに

新潟大学歯学部を卒業後、大学で10年、その後開業医として14年、歯科医になって24年が経とうとしているわけですが、毎日の臨床において常に充実感を感じて取り組んでいます。子どもから老人まで患者さんの生涯にわたって、健康に関わっていけることは歯科の魅力のひとつです。患者さんごとに異なる複雑な問題の解決のためには、歯科医としての知識と技術、経験を最大限に働かせていかなくてはなりません。患者さんの口腔内の健康が回復し、治療の結果に、ここからの笑顔で喜んでくれるときなどは、とてもやりがいのある職業だと感じられるときです。ここ数年、新潟大学は学部創設以来の個性あふれる教授から、若い教授にバトンタッチしてきています。多くの新潟大学出身の若い教授が誕生し、昔からの伝統を引き継ぎながらも、新しい分野を切り開いていこうというような熱気・活気が感じられます。次世代の歯科を担う君を新潟大学はきっと待っています。





相田 恵

ノースカロライナ大学医学部
ニューロサイエンスセンター
In situ Hybridization Core Facility
ディレクター
平成13年卒業

新潟大学歯学部からアメリカへ

歯学部に入學するという希望を持たれる受験生の皆様は、おそらく大部分の方が将来歯科医師になる事を目指していると思われます。私ももちろん歯科医師になる事を目標にし、歯学部卒業後2年間の研修期間を経て大学院に進学しました。何事もそうですが、新たな知識を得るほどもっと知りたいという意欲が湧いてきます。私はもう少し自分の研究を深く掘り下げてみたいと思うようになり、アメリカはワシントン大学で学ぶ機会をいただいて大学院終了後に渡米しました。渡米後は研究室にて自分の分野以外の研究にも携わらせていただき、また新たに研究技術を学ぶ機会も沢山ありました。ワシントン大学にて2年半の研究を終え、研究結果を論文にて発表する事もできました。しかしながら、ワシントン大学で身に付けた研究技術を生かしてもう少しアメリカでの研究事情を学びたいと思うようになり、2008年にノースカロライナ大学の研究施設にてディレクターを勤めさせていただく機会を得て現在に至ります。日々多くの研究者と仕事をして、さらに新しい知識を身につけるべく努力が必要な毎日ですが、アメリカでの研究生活は刺激的でもあり、とても充実しています。現在は実際に歯科医療に携わる事はありません。しかしながら、新潟大学歯学部で学んだ経験があるからこそ、今の自分があると思います。歯学部を目指す皆さんにも、歯科医師として世間に貢献するのはもちろんの事ですが、その他に新潟大学 歯学部で学んだ知識を世界で生かせる可能性も限りなくあります。貪欲に自分の未来を切り開いていきましょう。



藤山 友紀

新潟市保健所健康衛生課
平成12年卒業

目標に向かって

私は、歯学部2年生の時に、行政機関で働いている歯科医師がいることを知り、歯科保健行政に興味を持ちました。6年生になり、卒業後の進路を考え始めた時、行政機関で働くことを将来の目標として良いものか悩みました。それは、歯科医師が行政機関で働くことは、薬剤師や医師等と比べ狭き門だと感じていたからです。私は悩んだ末、「一先ず、目指してみよう!」と決め、新潟大学歯学部予防歯科学講座の門をたたきました。入局後、行政への思いを忘れることなく、色々なことに取り組んでいたら、厚生労働省で仕事をする機会を得、3年ほど医療機器の承認に関わる仕事をしました。その後、新潟市保健所に赴任し、以前から目標にしていた地域歯科保健行政の仕事に就き、現在に至っています。多職種の人たちと関係しながら仕事することは苦労もありますが、臨床の現場では味わうことができない多くのことを経験し、充実した日々を送っています。皆さん、沢山の経験をすることで、漠然としたものでも良いですから、まず目標を持って下さい。きっと素晴らしい未来が待っているはずです。頑張ってください。



石山 友香里

新潟市児童相談所
平成21年卒業

大学で得たもの

私は平成21年口腔生命福祉学科を卒業してから、新潟市役所の職員として働いています。福祉職での採用であり、新潟市児童相談所に配属となりました。1年目は相談判定係で、電話や面接で主に児童相談所に初めて相談をする方の相談を受けるなど、いわゆる児童相談所の窓口としての業務に携わっていました。平成22年度からは、一時保護係に配属となり、一時保護所で仕事をしています。一時保護所では、様々な事情によって自宅で生活することができない児童が保護されており、主な業務は子ども達の生活指導です。1年目と2年目とでは仕事の内容は大きく異なりますが、どちらの仕事でも、大学で学んだことは大きく活かされていると思います。特に、この学科の特色であるPBL(問題発見解決型学習法)で学習してきたことはとても役立っていると思います。仕事をしていく中で、いろいろと身につけねばならないと感じることは多くありますが、自分で本など資料を調べて学習し、知識を得ることは、あまり苦にならないように感じます。それから、歯科衛生士の資格も取得していることで、子ども達に歯科保健指導をしたり、日常的に歯に異常がないか見てあげることもできます。今後も大学で学んだ知識、経験をベースに、子ども達をはじめ市民の皆さんに貢献できる職員になれるよう頑張っていきたいと思っています。

クラブ活動

Club Activities

運動部

- スキースキー部 ●バレーボール部 ●卓球部 ●弓道部
- バドミントン部 ●剣道部 ●ゴルフ部 ●硬式テニス部
- 軟式野球部 ●バスケットボール部 ●サッカー部
- 水泳部 ●柔道部

文化部

- 軽音楽部 ●茶道部
- 能楽研究会
- 国際交流サークル

※自分の好きなクラブがない場合は、仲間を募ってクラブをつくることも可能です。歯学部学生会がバックアップします。



幅広い人間形成の養成

歯科医療は高い技術があるだけでは失格です。豊かな人間性が求められます。学生時代にクラブ活動をして、沢山の友人を作り、人間性を養いましょう。歯学部の学生は平均2つのクラブ活動に参加し、学生生活を実りあるものにしています。

全学のクラブ

新潟大学は1万人以上の学生が学んでいる総合大学です。全学的なサークル活動も盛んです。いろいろな学部の学生と交流し、豊かな人間性を養ってください。歯学部部に在籍し、全学ポータ部に所属し、アジア大会優勝、アトランタオリンピックに出場した学生もいました。

全日本歯科学学生総合体育大会

全国29歯科大学及び歯学部の学生による全国規模の体育大会で、25種目に約1万人の歯科学学生が参加します。冬季部門3種目、夏季部門22種目で、部門優勝と総合優勝を競います。

新潟大学歯学部の各運動部も毎年参加しています。

イベント

Events

歯学部は講義・実習に追い回されるのでは？と思っている人も少なくないでしょう。確かに、学生たちは歯学部の6年間ないしは4年間の生活でいろいろな知識、技術そして人間関係を勉強しています。忙しい中にも、学生が主体となり企画、実施しているイベントがいくつかあります。歯学部歯学科の一学年の定員40人、口腔生命福祉学科は20人です。高校の1クラスとほぼ同じか、その半分の人数で、大学教育としてはきわめて少人数の単位なのです。想像してみてください。クラスが一致団結して、目標に向かう姿を。



歯学部運動会

例年、5月の上旬又は中旬の土曜日に歯学部運動会が学年対抗で開かれます。学生の学生による学生のための運動会ですが、各学年ごとのチームに教員が参加し、優勝を目指します。

歯学祭

歯学部の文化祭ともいうべきもので、11月初旬の土・日に歯学部及び医歯学総合病院で行われます。歯学部を一般の人に知ってもらう展示を中心に、病院の教員の協力による無料歯科相談、軽音楽部の演奏、著名人を招いた講演会などいろいろな企画が行われます。

スポーツ大会

休日を利用した、運動部が主催する各種スポーツ大会の開催も頻繁です。サッカー、バレーボール、テニス、バスケットボール、ソフトボールなどを大いに楽しみます。教員もチームを作り、学生に負けるものかと張り切って、ボールを追いかけ、白熱したプレーを披露しています。

各地で活躍する卒業生

Alumni Association

新潟大学歯学部は平成27年3月末で2,594名に及び、新潟県のみならず、全国各地で、いろいろな分野で活躍しています。新潟大学のみならず、他大学で教育、研究、診療にあたっている卒業生も数多くいます。本学歯学部を卒業し、教授に就任した者は、新潟大学20名、北海道大学2名、岩手医科大学1名、東京医科歯科大学3名、防衛医科大学1名、日本歯科大学2名、日本大学松戸歯学部1名、広島大学1名、松本歯科大学4名、朝日大学1名、藤田保健衛生大学1名、新潟医療福祉大学4名、明倫短期大学2名、信州大学1名、新潟リハビリテーション大学院大学1名、北海道医療大学1名の延べ計46名にのびります。歯科医療行政では新潟県や新潟市はもとより、厚生労働省、地方自治体の行政官として活躍しています。また、全国で地域歯科医療に貢献している開業医も、歯科医師会の中堅として活躍しています。また、海外で研究生活を送る者や、国際医療の場で活躍する人たちも少なくありません。



同窓会会長からのメッセージ



多和田 孝雄
新潟市開業
歯学部同窓会会長
昭和51年卒業
第6期生

新潟大学歯学部は昭和40年に東京医科歯科大学歯学部、大阪大学歯学部に次いで国立大学3番目の歯学部として誕生しました。以来現在までに歯学科45期口腔生命福祉学科8期2,594名が卒業し、全国各地で活躍しています。

同窓会においても北海道から沖縄県まで18同窓会支部が設立され、会員の交流や親睦に役立っています。

歯科医師を目指す者は6年間の研鑽を積み、卒業後国家試験に合格しなければなりません。歯学部の卒業生はほとんどが歯科医療従事者となりますので、他学部受験生と違い、受験時に職業を選択することになります。

すでにご承知と思いますが、歯科医師過剰の地域が増えています。しかし、大学を中心とした多くの研究者が歯科の領域拡大に多大な努力をしています。最近では旧来の虫歯や歯周病の治療に加えて、口腔機能の見直しやそのケア、審美、容貌の改善に至るまで、益々拡大の兆しが認められます。皆さんの若い力や感性を必要とする場が出来ます。

新潟大学歯学部教育の理念を以前の歯学部長が次のように述べました。「人類の福祉増大と、人類の歴史を創造するに積極的な役割を果たすべく、より進んだ歯科医学を築く研究心のある歯科医師を育てることを目標とする。」

われわれは熱意あるあなたを待っています。

新潟大学歯学部ではわれわれとともに21世紀の歯科医療を担う優秀な若人を広く募集しています。本学部の入学試験には以下の3通りの方法があります。すなわち、最多で3回のチャンスがあるということです。なお、帰国子女を対象とした特別入試（歯学科）や、第3年次編入学試験（平成18年度からは口腔生命福祉学科においても）も実施しています。



特別入試

（推薦入試：歯学科、口腔生命福祉学科）

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、個別学力検査（いわゆる2次試験）を免除し、大学入試センター試験、個人面接、小論文、調査書を総合的に判断して合格者を決定する方法です。この方法で出願できるのは現役生だけです。11月下旬に実施します。

一般入試

（前期日程：歯学科、口腔生命福祉学科）

大学入試センター試験、個別学力検査及び面接試験の成績で合格者を決定する方法です。個別学力検査及び面接試験は2月下旬に新潟大学歯学部で実施されます。

一般入試

（後期日程：歯学科）

個別学力検査を免除し、大学入試センター試験と面接試験の成績で合格者を決定する方法です。面接試験は3月中旬に新潟大学歯学部で実施されます。

平成27年度

		特別入試（推薦入試）	一般入試（前期日程）	一般入試（後期日程）
歯学科	募集人員	10	22	8
	志願者	23	133	95
	倍率	2.3	6.0	11.9
口腔生命福祉学科	募集人員	5	15	／
	志願者	3	35	／
	倍率	0.6	2.3	／

※なお、各選抜試験ごとの募集人員及び入試科目などは変更される可能性があります。詳細は例年11月に発表される募集要項を参照してください。

入学試験に関するお問い合わせは

〒951-8514 新潟市中央区学校町通2番町5274番地
新潟大学医歯学系歯学部事務室学務係
025-227-2798・2799
e-mail : gakumu@dent.niigata-u.ac.jp
URL : <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/>

ACCESS



新潟駅からバスに乗る場合

新潟駅前(万代口)から、市内バス「川岸町・県庁前」行き、「信濃町先回り浜浦町」行き、または「新潟大学・内野」行きに乗車し、「市役所前」下車。新潟市役所のはすむかい、徒歩1分です。

JRを利用する場合

新潟駅で越後線に乗り換え、一つ目の「白山駅」下車、徒歩15分です。

高速道路を利用する場合

北陸自動車道新潟西インターチェンジまたは、磐越自動車道新潟中央インターチェンジで高速道路を出て、新潟バイパスに入り、桜木インターチェンジで降ります。昭和大橋方面に直進し、約10分で到着します。

飛行機を利用する場合

新潟空港からタクシーに乗り、約30分です。



新潟大学歯学部

新潟市中央区学校町通2番町5274番地
TEL.025-223-6161 (代表)

〔歯学部〕

<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/>

〔医歯学総合病院歯科〕

<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/>